

第5回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)5月24日(月) 18時00分～19時30分		
場所	長野県小諸市庁舎 3F 第1・第2会議室		
出席	懇話会構成員20名		
欠席	懇話会構成員 5名	傍聴者	傍聴3名、報道2社
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、丸山担当係長、柳沢主任指導主事	
当日資料	第5回懇話会次第、構成員名簿、第4回懇話会まとめ、 「小諸新校とまちづくり」プレゼンテーション用資料 ①西村廣一 懇話会委員、②小泉俊博 小諸市長		

会議事項

1 報告 (1) 第4回懇話会まとめ (2) 第3回校地検討部会報告
2 会議 (1) 「小諸新校とまちづくり」プレゼン及び意見交換 ※連絡事項 次回予定(令和3年7月20日)

「小諸新校とまちづくり」プレゼンテーション及び意見交換

①【西村廣一様(懇話会委員：元小諸商業・小諸高校校長、現埼玉県狭山市教育委員)】

<学校と地域との連携の必要性> ～小諸市民と小諸新校の一体感を目指して～

- 今の教育に特に必要なこと：認知能力(学力等)＋非認知能力(コミュニケーション力等) ➡ **生きる力**
 ☞非認知能力を育むために、学校の中だけでなく外に出て、いろいろな場で、いろいろな人と関わることが大切
 ☞一人ひとりの子どもに合った教育を実現するために、学校の力＋地域住民の力が必要
- 市内唯一の小諸新校＝コンパクトシティ構想の一環(小諸の広告塔) ➡ **市民の意識共有と強い連携が大切**
 《様々な連携の可能性》

1. 行政との連携＝「小諸未来義塾」の発展、小諸図書館・ステラホールの活用、市議会との連携等
2. 民間との連携＝就業体験の充実と民間人講師による授業の拡大
3. 小中学校・大学との連携＝小中学校⇔小諸新校⇔大学間での連携強化 特に「音楽のまち」の充実
4. その他＝地域資源の活用・小諸学・クラウドファンディングやふるさと納税の活用・小諸市地域連携協働室設置

<大切なこと＝創造力と新たな発想で、子どもたちの「ワクワク感」を見つけ、感性を育む、協働した取組>

②【小泉俊博様(小諸市長)】

<小諸新校への期待>多様な学びの実践➡「人間味」「バランス感覚」、高校生＋行政➡小諸の課題に協働で取組む
 小諸のどこでも、誰からでも学べる街中がキャンパス➡「心豊かで自律した人が育つ街」

- 小諸版「ウェルネスシティ」：人口減少社会下でも「移住して子育てできる、選ばれる街」を目指す
- コロナ禍で見えたこと：人々の考え方、社会の仕組の変化➡都市と地方の役割分担の明確化、地方の優位性
- 小諸DNA：①地元住民と移住者が化学反応をおこし、街を発展させた(両校のルーツ、小諸義塾の先生方等)
 ②先駆的に新しいことに挑戦した(長野県初の図書館や動物園、6次産業の取組等)

☞サードプレイス(職場・家庭・学校以外の自分が癒される場所)の必要性を小諸は重視

《最近の小諸の新たな動き》当たり前にある、自然や文化を大切に、あるものを活かしたまちづくりを目指して

- ・「BTM(IT)」、「軽井沢蒸留酒製造(ウイスキー)」、「ハーバー(無添加化粧品)」等の企業進出や新規出店が多い
- ・農業振興事業とMaaS(次世代型公共交通)の研究を事業化し、事業構想大学院大学と提携
- ・コンパクトシティ構想による施設の集約に加え、複合型中心拠点誘導施設が、10月グランドオープン予定

<小諸新校が、多くの皆さんの手で、より良い学校ができるよう、行政からも手伝い支援する>

【意見交換】(『小諸新校とまちづくり』)

- MaaSは海外で試験的に導入されているが、若い世代と異なり高齢者世代の利用には困難もあると思う(生徒)。
 ➡小諸はスタートラインに立ったばかり。バスにタブレットを持ち込み顔認証する等、さまざまな方法を検証したい。
- ウェルネスとは健康や身体という面だけではなく、総合的に捉える概念だと認識。健康以外の狙いはあるのか(生徒)。
 ➡「あらゆる分野で健康・健全を目指したことは当たり前」と言っているところは無かったので「小諸版」とした。
- 西村先生の「家庭」と市長資料の「いのち輝くまち」から「安心できる学校」という概念はとても大事だと感じた。
- 「学校の外へ飛び出して学びたい」という必要感をいかに創り出していか。授業にも関わってくることだと感じた。
- 教科横断型の学習により様々な知識や技能が身につく、地域へ出た時や海外の人と接する時等、いろんな場面で生きる。
- 小諸市としても、地域に関わった応援をしていきたい。普・商・音のある特色ある学校は、地域や行政にとっても宝。
- 青年会議所では、地元の大人と子どもが触れ合うイベント開催を目指している。高校生との交流する機会を構築したい。
- 行政・企業・家庭の協力が必要。地域の様々なところで連携していく形の新校を考えていけたらいいと思う。
- ワクワクする方向が出てきた。今の高校生にはアイデアがあり企業が欲しがるとい時代。地元企業が社会の中で勉強しながら協力できる機会を作りたい。こんな高校であれば、むしろ1校になることは良い。福祉科もあるといいと思った。

